

【福井市】
1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申（令和3年1月）及びそれに続く政府の議論においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められています。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実とには、「ICT 活用」のベストミックスが重要であり、1人1台端末の活用を支えています。

本市では、第3期福井市教育振興基本計画において「みんなが学び成長するふくいの教育～全国に誇れる教育環境のさらなる充実～」を基本理念のもと、「学びをつなぐ・未来につなげる～『つながる』を大切にした学校づくり～」を福井市学校教育方針として掲げ、ICTの活用において、各学校や児童生徒の実態等に応じ、GIGA スクール構想により整備されたICT 環境のもと、研修や授業研究を行い、1人1台端末の効果的な利活用に向けての実践を図っています。今後、GIGA スクール構想第2期に向けて、リーディング DX 指定校等の先進事例等も踏まえた上で、以下のような児童生徒の学びの姿を目指していきます。まず、「個別最適な学び」の実現において、児童生徒は、1人1台端末を通じて個々の理解度や学習進度に合わせ、より1人1人の児童生徒の実態に応じて学びを進めていきます。また、「協働的な学び」の実現において、児童生徒が、他の学校や地域とチャットやオンライン会議を通してつながり、課題解決に取り組む機会を増やすことで、様々な他者の考えに触れ、自己の考えを広げ深めることを目指します。

2 GIGA 第1期の総括

（1）経緯と現状

福井市では、GIGA スクール構想に基づき、2024年度までに小・中学校の児童生徒に1人1台端末を整備しました。この5年間で学習用端末を接続するためのICT 環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきました。

さらに、ネットワーク構成では「クラウド UTM（※1）」を導入し、大量・大容量のアクセスにも対応できるように環境整備をし、許可したクラウドサービスへのアクセスをローカルブレイクアウト（※2）させる構成で、WAN（※3）の帯域を最適化し、同時に各種セキュリティも統合的に管理できるようになりました。

これらの ICT 環境の整備に加え、福井市では令和2年度から GIGA スクールサポーターによる教職員のサポートに努めてきました。これまでは、ICT 機器の環境整備や機器の不具合による問い合わせ等の対応が主でしたが、併せて、教職員の ICT を活用した授業のアドバイスや、授業の質の向上を目指した研修会の充実を図っていきます。

（２）ICT 施策の実施内容

- ・ネットワーク構成：「クラウド UTM（※１）」を導入し、大量・大容量のアクセスにも対応できるように環境整備をし、許可したクラウドサービスへのアクセスをローカルブレイクアウト（※２）させる構成で、WAN（※３）の帯域を最適化し、同時に各種セキュリティも統合的に管理しています。
- ・教育支援設備の導入：GIGA スクールサポーターを４名配置することで、ICT 環境整備の質の向上や維持に努めてきました。
- ・学習活動の充実：整備した ICT 環境を活用することで、児童生徒が情報収集、共同編集、意見共有、ICT 端末を用いた発表など、さまざまな学習活動を行えるようになりました。

（３）課題

- ・教職員間の ICT 活用のばらつきがあり、授業や校務での ICT 活用頻度に教職員間で差があることが課題として挙げられます。
- ・児童生徒の端末の持ち帰りの頻度が学校によってばらつきがあり、全体として進んでいない現状があります。
- ・ネットワークアセスメントを継続的に実施し、学校で安定して端末を利活用できるような環境を整備していきます。

３．１人１台端末の利活用方策

福井市では、GIGA スクール構想第２期において、端末を更新し、児童生徒１人１台の端末環境を引き続き維持します。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。

また、第１期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討していきます。

（１）１人１台端末を積極的に活用するために

教職員 に対し定期的な研修を実施していますが、ICT 機器の授業活用が全国平均を下回っている状況です。このため、研修の充実に加え、全国や県内の好事例の共有や互見授業の実施を通じて、教職員の ICT 活用指導力の向上を図ります。学校へのヒアリングで ICT 端末の持ち帰り頻度 に課題があることが明らかになったため、全小中学校へ AI ドリルの導入など、支援体制も強化していきます。

（２）個別最適・協働的な学びの充実を図るために

１人１台端末を活用し、児童生徒の課題解決能力及び情報活用能力の育成を目指しています。AI ドリル実証事業により、個別に適した学習環境を提供し、学習習慣の定

着と学力向上に取り組みました。令和8年にはクラウド型の統合型校務支援システムを導入し、校務系と学習系データの連携を円滑にします。 今後はデータの可視化を活用して個別最適な指導を実現や、統合型校務支援システムとデータ連携が可能な AI ドリルを導入し、教職員の事務負担を軽減して児童生徒と向き合う時間の確保 を図っていきます。

（３）全ての児童生徒の学びを保障するために

全ての児童 生徒が平等に教育を受けられるよう、ICT 端末を活用した授業を推進していますが、不登校児童生徒の支援の充実が課題となっています。学校によっては不登校出現率が高いため、自宅から授業に参加できる仕組みの整備や、アプリを活用した多様な学習機会の提供に取り組んでいます。さらに、学習 e ポータルの心の健康観察の導入を検討し、児童生徒の健康状態の把握やいじめの未然防止を図り、安心して過ごせる学校環境を整備していきます。

【注釈】

- ※1 クラウド UTM 複数のセキュリティ機能を一つの機器で運用管理し、包括的にネットワーク環境保護をクラウド環境で利用できるサービス
- ※2 ローカルブレイクアウト 特定の通信については WAN などを経由せず、各拠点から直接接続するネットワーク構成のこと。
- ※3 WAN Wide Area Network の略称